

十二月例会御案内

(昭和五十七年以降通算第三九二回)

時代を刷新する会

○御案内

十二月九日(月)十一時半より入館可、正午より午後二時半 参議院議員会館地下一階一〇八会議室
講題 台湾の最近の実態・実情について 来年一月の台湾総統選挙はどうなる!

講師 浅野和生先生(平成国際大学教授・法学博士、台湾研究者、台湾に関する著書多数)

◎台湾については、当団体の初代会長・岸信介元総理が、当時の蒋介石総統と親しく、年に一度は訪ねておりましたし、私も、戦時中に戦死または戦病死した三万人を越す台湾籍日本兵の御遺族へ弔意金を支払う下調査のため、昭和六十年前後、何度も台湾の山岳部族を訪ねて険しい山へ入った。その時に、当時「高砂族」と呼ばれた山岳部族の方々から「いま、内地はどうなっていますか」と聞かれ涙が出た。その後、日本国会で議員立法が成立し、一人二百万円の弔意金が支払われた。それにつけて、韓国とも親しく付き合ったが、親しくした方が亡くなられた今の韓国は、反日が渦巻いている。そうした面からも、台湾の方々のことは忘れてはならないと思う。台湾では来年一月に、親日派と親中派の総統立候補者の選挙がある。私もこの十五年、台湾に行っていないので、台湾研究者で知られる浅野和生平成国際大学教授に、解説をお願い申し上げた。奮って御参加を!
(清原記)

▽当日会費(昼食付き) 会員は三千元、非会員五千元。

時代を刷新する会

http://www.jidaisassin.jp

十二月九日(月)の月例会に

出席 欠席 (いずれかに○印を)

電話 03-3272-4320
FAX 03-3507-8587

御芳名

当日連絡先 080-8836-6203 重田

貴方様のFAX

080-9292-2620 高津

メール

(メール不可・通話のみ)

注▽ ハガキの返信は十二月五日(木)までに、御投函賜りたく。

○御報告

本年の台風被害は甚大なものがある。九月の第十五号、十月の第十九号と第二十一号と強風・大雨の台風が日本列島を襲い、併せて、百数十名の人命と家屋倒壊・水没の大被害をもたらした。亡くなられた方、被災された方々に心からお見舞いを申し上げる。

思えば、現代は、そうした自然災害ばかりではなく、交通機関の事故、大工場事故、原発事故、大火災、他国からのミサイル攻撃等々、国民は、いっような事故に合うか、分らない。

そうした折、日本大学が、日本で初めて「危機管理学部」を創設し、危機管理対策を本格的に研究されているのを知ったので、その中心の御存在・福田充危機管理学部教授をお招きし、十一月十五日正午から、参議院会館会議室にて、御解説をお願いした。

その御講話は広範多岐にわたった。いま、その要点を御報告すると、東大大学院生であった時、阪神淡路大震災が起き、そのショックでそれまでの研究を投げ出し、危機管理学に取り組んだ。

次にその研究内容として、各種の危機類型を紹介された後、自然災害を中心にお話しがあった。一般に「リスク」と「クライシス」があるが、学問的には、「リスク」は災害発生前、「クライシス」は災害発生後と区別している。

災害時に重要なのは、まず情報である。今回でも明らかのように、大災害の場合は電気やガスがストップする。そのため、向後、防災無線の整備とスマホへの災害速報の充実が必要である。国民も今回の大災害を機に「ここは大丈夫だろう」といった思い込みを捨て迅速避難してほしい。消防・警察・自衛隊が助けに来られる公助を待つのではなく、自分の身は自分で守る自助、そして、家族・隣人の連携による共助を、日頃から心掛けるべきだ。また、スマホが使えなくても、災害用伝言ダイヤル一七二があることを認識してほしい等々、大層貴重な助言をいただいた。
(清原記)

▽「時代を刷新する会」とは

「何事も人類・国民のためになることは、時代を先取りして、積極的に取り組もう」との趣旨で、昭和五十六年、岸信介元総理によって創設されたシンクタンクです。晩年の岸信介元総理がそうであったように、超党派・超派閥で、真に国を憂える有志によって構成されています。八つの部会と、五、六の委員会があり、これまでに百三十七本の要請書を時の政府に提出しています。第二代会長は、木村睦男元参議院議長、第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、第四代会長の塩川正十郎元財務大臣は、九十歳を機に辞任。第五代会長代行として、江口一雄元衆議院議員。その後、平成二十七年四月から、第六代会長代行として、岸信夫衆議院議員・元外務副大臣、前衆議院安全保障委員長が引き続き就任しております。

▽事務局電話(03) 3272-4320

専務理事・清原淳平、総務・重田、高津